



## 大学院社会人入学一期生 50歳で大学教授に

### 「社会人大学院制度」の一期生として

国広さんは40歳で「社会人大学院制度」の一期生として横浜市立大学大学院に入学しました。慶応義塾大学大学院で博士号を取得した後、武蔵大学社会学部の助教授になったのが50歳、8年前です。

慶応義塾大学経済学部卒業後、NHKに勤務。第二子出産後に仕事を辞め、夫の転勤で四国に転居し3～4年は子育てをしました。その後、横浜市に戻ったときに再就職し、30代は番組制作プロダクションでフリーライターとして働きました。

大学院進学を決意したきっかけは、39歳の時の入院手術。「仕事を全部断わらざるをえず、手術後は仕事がなくなっていました。求人欄をみても30代前半までと、仕事をしたいのに仕事がない状況で、これからどう生きていこうかと悩み考えた末に出した答えが大学院への進学でした。大学院では、フェミニズム、女性学をきちんと勉強する機会が与えられ充実していました。研究対象は「主婦」。修士論文は「主婦というカテゴリー」というテーマで、30人の主婦にインタビューをし、どういう人達が主婦とよばれているか、主婦と呼ばれることについての意識調査をまとめました。

### 博士課程へ進学、学位取得 大学教授に

大学院を修了しても、就職先は全くありません。再度、どうしたらいいか分からない状

況になった時、慶応大学の岩男寿美子先生が、調査の手伝いをしないかと声をかけてくださり1年間手伝いました。元気いっぱい活動なさる先生に触発され、恐る恐る慶応大学の大学院博士課程を受験しました。社会学研究科後期博士課程で3年、その後3年間のオーバードクターを経て6年目に博士論文が受理されました。

大学院の3年目の頃から非常勤で女性学を教える機会や、女性センターにも呼ばれるようになりました。50歳で武蔵大学社会学部に就職しました。現在は、メディア社会学科教授、社会学部長です。

「仕事を辞めて大学院に進学する人や海外留学をする人も増えています。大学院進学や海外留学は、キャリアの再形成にとって有効な手段ですが、その後必ずしも望むような職業に就けるとはかぎりません。私の場合は、すごくラッキーなケースだったのです。国広さんは、主な著作（別記）から明かなように、主婦に代表される一般の女性をめぐる課題を精緻な調査とジェンダーという新しい切り口で、社会的に分析した研究業績が高く評価されているからこそ、研究者としての今日があるのでしょう。

そしてなによりも女性に対するやさしいまなざしが、市民講座などの講師として人気を博しているゆえんです。

### 女性と政治の距離を縮めたい！ 地域で政治を語り合う

国広さんは、横浜市に戻って青葉区の新興住宅地あざみ野に落ち着き、フリーライターとして仕事を再開したころ、PTA活動、生協の活動を通して、専業主婦と出会います。「自分の意見を持ち、様々な活動をするそんなに素晴らしい人たちがいるとは実は思っていませんでした。あれ、私が思っていた主婦とは違うなと目が開かれる思いでした。地域の活動は、ほとんどが無償です。無償は嫌、自立したい、夫と対等に生きたいと思っていたので、一種の違和感を持ちながら活動していました。専業主婦の人達は、どうして生き生きと一生懸命、私が仕事にける以上のエネルギーをかけて、無償の活動をするのだろうと疑問を持ちました。その思いが、大学院での研究テーマにつながったのです。

その後、92年に市川房枝の生涯を描いた「87歳の青春」の上映会の話が持ち上がった時に、5人の仲間とともに超党派の「女性と政治を考える会」をスタートさせます。映画と議員を呼んでのシンポジウムを開催しました。会場から「政治の話、真面目な話は隣近所では全然できない。こういう機会があってとても嬉しい」という声がでました。これは止めるわけにはいかないと、今年で13年続いています。国政選挙の時には政党にアンケートを実施し、有権者に配布。また、女性と暴力のシンポジウム「性・Say・生～性暴力と向き合う地域での取り組み」や「21世紀の女性と年金」のシンポジウムを開催し、報告書を出しました。

国広さんは、研究者になった今でも、地域の活動、地域の仲間をととても大切にしています。「地域にしっかり足をつけて活動しないと、さまざまな社会情勢に振り回されて、私の出発点は何だったのか見失いかねません。地域の仲間に話が通じなくなったら終わり。そ

の大切さをずっと感じています」

(2005年8月29日取材)

### 主な著作

- 『主婦とジェンダー』尚学社
- 『都市と女性の社会学』サイエンス社(共著)
- 『エンパワメントの女性学』有斐閣(共著)
- 『都市環境と子育て・少子化・ジェンダ・シティズンシップ』(共著)勁草書房

### プロフィール

国広 陽子(くにひろ ようこ)

武蔵大学社会学部教授

1970年 慶応義塾大学経済学部卒業

日本放送協会(NHK)に就職。ディレクターとして、数々のテレビ・ラジオの番組制作に携わる。

30歳で退職し、子育てに取り組みながら、フリーランスの仕事を経験。

40歳で横浜市立大学大学院経済学研究科修士課程に入学。

1997年に慶応義塾大学社会学研究科後期博士課程修了、学位(社会学)取得。

1998年より武蔵大学で教鞭を執る。